

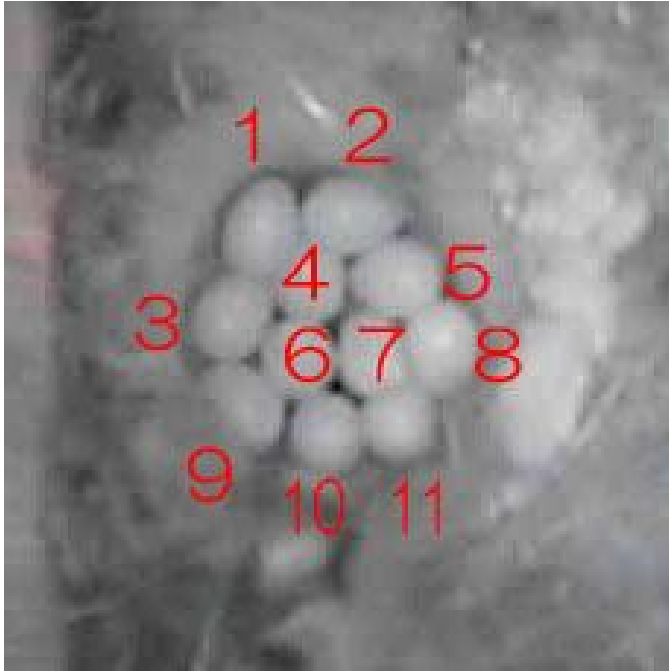
「シジュウカラの営巣(7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

シジュウカラは、1回の営巣で、6個~11個の卵を産む。私が観察した中で、一番多かったのも、11個だった。その年の天候や、営巣の時期によって、餌になる虫の量がちがひ、卵の数も変わるようだ。



今年の営巣でも9個か10個産むと期待していたのだが、朝ごとに1個ずつ産み、7個産んだところで昼も抱卵に入った。



シジュウカラは、卵が予定数に達しないと、一日中抱卵することはない。産卵日によって、抱卵日数に差が出にくいようにしているのである。メスは抱卵に入ると、餌をとりに行く時以外は、ずっと巣箱にいる。



私は最初の孵化を7月13日前後と予想していたが、思いのほか早く、7月11日だった。正午ごろ、メスは産座を覆って、ずっと抱卵している。



12時10分頃、メスが自分の餌を採りに、出かけていった。その間に、最初の卵に異変があった。



7個の卵のうち、一番上の卵にひびが入っている。野鳥の孵化の一瞬というものは、そう簡単に見られるものではない。しかしこのシステムだと、東京からでも孵化の一瞬を見ることができる。